

私立大学研究ブランディング事業

平成30年度の進捗状況

学校法人番号	281031	学校法人名	玉田学園		
大学名	神戸常盤大学				
事業名	地域子育てプラットフォームの構築を通じたAll-Winプラン				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	950名
参画組織	保健科学部（医療検査学科、看護学科）、教育学部、短期大学部口腔保健学科、地域交流センター、KTU研究開発推進センター				
事業概要	<p>本事業は、子どもの成長を核とするまちづくりを行うものである。神戸市長田区を対象に「子育て支援」について、本学の専門性を駆使してその解決策を講じ、地域のソーシャルキャピタルを発掘、強化し、本学と地域が一体となった『地域子育てプラットフォーム』を組織する。本学はその一員として教育・保健医療の機能をもった『子育て総合支援施設』での取り組みを広報することで「地域と歩みを共にする大学」というブランド醸成を図る。</p>				
①事業目的	<p>本事業は子どもの成長を核とするまちづくりを地域と協働して行うものである。そこでは具体的に、以下の3つの目的を果たし、“地域と歩みを共にする大学”のブランドイメージを学外に広く発信し、その定着を図る。</p> <p>(1) 市内とりわけ長田区及び隣接区において、長田区内で運営する『子育て総合支援施設』を主な活動場所としながら、地域の子どもたちの成長を支え続けられる組織体制『地域子育てプラットフォーム』の構築を図る。</p> <p>(2) 本学が持てる教育・保健医療の専門力を駆使して、地域が抱える子育て支援をめぐる課題の全貌、及び地域に潜在するソーシャルキャピタルの発掘、強化に取り組む。</p> <p>(3) 「地域子育てプラットフォーム」を通して取り組まれる一連の方策が果たす効果、とりわけ貧困家庭にある子どもたちの成長に対する効果を、本学が有する研究力を駆使して、包括的に検証する。</p>				
②30年度の実施目標及び実施計画	<p>神戸市長田区における子育て及びその支援に関する課題を引き続き明らかにするとともに、『地域子育てプラットフォーム』を通して取り組まれる子育てへの総合的な支援の効果を測定する方法を確立し、その成果を学会発表や論文・公開講座等で公表する。具体的には以下の4つを行う。</p> <p>①研究方法の確立:前年度の活動に加え、「具体的にどういった効果を明らかにするために何をどのように分析するのか」といったように研究方法の確立を目指す。 <研究成果公表方法> ◆ 関連学会にて発表したり大学紀要において論文にまとめたりする。 ◆ 地域の方々とともに子育て支援について考える公開講座等を設ける。</p> <p>②『地域子育てプラットフォーム』を通じた取り組みを大学や地域において実施する。</p> <p>③『地域子育てプラットフォーム』に参画する地域の方や学生を対象に履修証明プログラムを実施するとともに、本事業が行う子育て支援の実情を鑑みながらプログラムの改善を行う。</p> <p>④『子育て総合支援施設』において子育て支援に関する取組を実施し、評価・改善を行う。</p>				

③30年度の事業成果

研究面での成果：
H29年度の予備（準備）的研究のステップを経て、今年度より本格的・具体的な研究をスタートさせた。コア・リサーチである『長田区における子育て及びその支援に関する現状と課題』と10件のユニット研究、合計11件の研究についての具体的な成果については、【調査・研究チーム活動報告書】としてまとめた。
このユニット研究の内の2つの成果は、科研費獲得にもつながった。
以下は、研究活度・研究成果の概要数値を示すものである。
◎査読有り論文：1編
◎査読無し論文：3編
◎講演・口頭発表等：18件
◎研究活動ための出張：85件

子育て支援の取組みでの成果：
今年5月に開設した子育て総合支援施設KIT（きつと）を拠点とすることでより地域に溶け込んだ活動が可能となった。
以下に特筆すべき数値を示し、計画が順調であることを示す。
◎子育て支援関連プログラム：104回実施
子育て相談（26回）、歯科相談（10回）、ときわカフェ（12回）、公開講座（6回）他多数実施。
◎年間利用者数：延べ5,686名（本学関係者を除く）

広報活動での成果：
本学法人本部社会連携課と連携し、広報活動にも力を入れた。
◆『しながた・くにつか ローカル&ワールドフェスティバル』へ参加。
◆ラジオ出演（ラジオ関西：サンデー神戸）
◆神戸新聞【KOBЕ子育て応援団からのメッセージ】：インタビュー掲載
◆2040年に向けた高等教育のグランドデザインに関するシンポジウム
これからの大学が担う地域への役割と責任～「地域連携プラットフォーム」が描く未来地図～開催

④30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果

(自己点検・評価)
研究面での自己点検・評価：
研究の進捗については、<研究成果報告・意見交換会>で報告を行い、チームリーダー他のユニットリサーチャー同士でアドバイスしあった。今年度は、合計8回の会合を実施した。

子育て支援の取組みでの自己点検・評価：
目標数値である年間20件の5倍以上を開催し、年間利用者の延べ人数も目標値の28倍以上の利用者があった。これらのことから着実に成果が出ていると判断した。その一方でH29年度中にプログラム構築を完了させるべく進めた履修証明プログラム「子育て支援士」であるが、文部科学省において同プログラム制度の変更が検討されていたため本年度以降の募集となり、遅れが生じていることは確かであるが、計画自体は止まることなく、前進を続けており、問題ないと結論づけた。

広報活動（広報戦略）での自己点検・評価：
HPを始めとした様々な媒体を通して広報活動を実施出来たと考えるが、単発での戦略であることが課題として残るが、年度末には、シンポジウムを開催した。設定した定員150名を超える参加者があり、本学が、「地域とともに歩む大学」であることが、本学自身認知度と併せて広く認知されつつあるものと受けとめている。

(外部評価)
2019年3月9日（土）のシンポジウム終了後に外部評価委員会を開催。長田区長を含む6名の評価委員の方々に事業成果報告を行い、各委員よりアドバイスを受けた。
■「子育て支援士」の構築等、制度見直し、着手した成果を待ちたい。
■より一層地域のニーズに寄り添ったプログラム実施を期待する。
■あまり目標（数値）にとらわれず、地域社会の特性やニーズを考慮し、他地域のモデルとなれるよう期待していますので、本事業をより効果的にすすめていただきたい。

以上、平成30年度の成果は実施目標・計画に達成しているものと評価できる。

⑤30年度の補助金の使用状況

経費区分	研究設備 整備費	研究 推進費	広報・ 普及費	人件費	その他 (借損料等)	総額
支出総額	286	2,777	6,385	4,650	5,928	20,026
うち、私立大学等経常費補助 (特別補助)	286	2,777	6,385	4,650	5,928	20,026

(千円)

本事業に関わる経費は定期的に監査を受け、適切な執行・管理を行っている。